

【ごあいさつ】

2020年9月のJICAの草の根技術協力プロジェクトの開始から10カ月が経過しました。とは言え、最初の半年間は、インターネット事情が厳しい中でのオンライン会議のみ。なかなか進まない状況が続きました。やっと、草の根プロジェクトも渡航が可能となり、下の報告にもありますようにプロジェクトコーディネーターの石本事務局長が出張してきました。長い隔離期間(東ティモール入国後と日本帰国後の各14日間)を要しましたが、現地アシスタントの雇用をはじめ、多くの成果がありました。

アシスタントのマルコス・カルバリョさんは、2019年のプロジェクト前調査にも参加してくれたパーツ大学公衆衛生学部卒業生です。プロジェクトの貴重な仲間として、活躍を期待したいと思います。

(代表理事:樋口倫代)



パーツ大学にて。左から4人目が公衆衛生学部長、5人目がマルコスさん

マルコスさんからのメッセージ:私は1993年にアイレウ県で生まれ、現在はディリ在住です。2018年にパーツ大学公衆衛生学部を卒業しました。プロジェクトに関連する経験とスキルがあり、勤勉です。みんなを助けてしっかりと働き、UNPAZ-BiPHプロジェクトを発展させていきたいと思っています。

【東ティモール出張報告】

草の根プロジェクトでは事業開始時からパートナー団体であるパーツ大学公衆衛生学部教員とオンライン会議を進めてきましたが、このたび活動の見直しと現地アシスタントの雇用目的で、3月15日から4月22日にかけて石本が現地に行ってきました。出張期間中に首都ディリのロックダウンや豪雨水害などが発生しましたが、幸いなことにパーツ大学および教員に大きな被害はありませんでした。短い期間ではありましたが、非常事態宣言下での現地の様子や大学の教育状況を知り、今後どのように本事業を進めていくかを話し合うことができました。アシスタントも無事採用することができましたので、今後はより緊密に連携が取れると期待しております。コロナ禍で両国ともに厳しい状況が続くと思いますが、JICA担当者とも話し合い、オンラインでの授業支援の可能性等も検討していきたいと思っております。

なお、今回の水害にあたり、現地で支援活動をしている2つの団体(認定NPO法人シェア=国際保健協力市民の会、認定NPO法人パルシク)に当団体から各3万円寄付させていただいたことを合わせてご報告いたします。BiPHとして直接の支援活動はできませんでしたが、現地の人びとの生活が一日も早く改善するよう祈っております。(事務局長:石本馨)

【キーワード】医薬品アクセス

日本では2月17日に医療従事者などへの先行接種が開始され、対象者を徐々に広げています。政府ウェブサイトによると、7月30日時点で、2回目接種(すなわち完了)は全体で28%、高齢者は73%となっています。

世界の状況はどうなのでしょう？NHKニュースなどでよく引用されるOur World in Dataのトップに掲載されているサマリーを見ると、7月30日時点での接種完了は14%です。そして「低所得国」では1回以上接種が1.1%となっています。なぜ低所得国では接種が進んでいないのでしょうか？

医薬品やサービスといった保健資源の恩恵を私たちが享受することができるかどうかを考える時、よく問題となるのが、「ない」「高い」「遠い」「受入れ難い」です。日本のコロナワクチン接種でも、近所のかかりつけ医が予防接種を取り扱っていない(遠い)ことや、副作用への懸念(受入れ難い)などはあるようです。また、ワクチン配布の遅れ(ない)など気になる報道もありますが、日本政府は3.14億回分のコロナワクチンを確保しており、すべての住民が接種を受けられる予定です。

低所得国などでの医薬品アクセスで問題になるのは、まずは「ない」と「高い」です。これまでも、さまざまな対策が取られてきましたが、まず思いつくのは、以下ではないでしょうか。

- ① 現物や購入資金を提供する。
- ② 共同購入して、低所得国などには資金提供を免除する。



①は、コロナワクチンに関しても盛んに行われていて、報道でもよく耳にします。②はコロナワクチンでは、COVAXとして知られています。日本はすでに10億ドルを拠出していて、アメリカに次ぐ額とのことですが、しかし、COVAXでは各国の人口の20%しかカバーできません。

日本での注目度はやや下がるかもしれませんが、特許にアプローチする方法があります。医薬品の開発者には20年間(最大5年の延長可)の「特許権」が与えられます。25年間ずっとではないのですが、しばらくは独占的に作って売ることができるので、供給量や値段を自由に設定できます。新しい薬が「ない」「高い」ことに影響していると考えられています。これに対して、HIV・エイズ治療薬では、長い時間をかけて以下のような手段でアクセスが改善されてきました。

- ③ 国が「強制実施権」を発動する。
- ④ 特許権者が自発的に特許を提供する。
- ⑤ 特許をプールする。

世界貿易機関(WTO)に加盟している国は、条約により医薬品特許制度の導入を義務付けられていますが、国が公衆衛生上必要と認めれば、特許権者(多くの場合は製薬会社)の承認なしでも技術を使用することができるようになりました。この③が可能となったことは、HIV治療薬が手に契機となったとも言われています。ただ、これは国にとって簡単なことではないというのは想像のつくところですが、④のように製薬会社による自発的な取り組みもあります。ブランドイメージアップの目的もあるようですが、歓迎すべきことには違いありません。しかし、特許権者の胸先三寸ですから、安定したしくみとは言えないでしょう。各国の拠出や国際的な資金源が製薬会社から特許を買取って、プールしジェネリック会社が新薬を作るようにしたしくみが⑤です。HIV治療薬などへのアクセス改善に貢献してきました。

そして今、もう一步踏み込んだ議論が注目されています。すなわち、

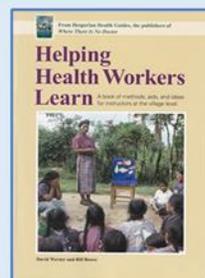
- ⑥ 特許を一時的に停止する。

今回、コロナウィルスワクチンの開発が非常に早かったことにお気付きの人も多いかと思いますが、非常に大きな公的資金が投入されていたことも理由の1つでしょう。公的資金によって開発された薬に特許は必要なのか？という点も議論も背景になっています。また、お金がないのではなく、ワクチンがない！ということも論点のようです。

8月20日の勉強会では、今世界でこの議論がどうなっているのか、「新型コロナに対する公平な医療アクセスをすべての人に！連絡会」呼びかけ人である稲場雅紀さんにお話をお聞かせします。

【ほんプロ進行中！】

Helping Health Workers Learn(デビッド・ワーナー著)翻訳プロジェクト(通称「ほんプロ」)ですが、原訳が完成し、現在は監修作業の真っ最中ですが、完成時期は予定より遅れる見込みですが、構想段階から多くの方がボランティアで関わってくださっている「ほんプロ」。一日も早く目の目をみることができるよう進めてまいります。



【勉強会報告】

*毎回の勉強会は、ウェブサイトとFBで詳しくご報告しています。

1月22日:

患者の立場から医療を考える場「パシエントサロン」の挑戦

話題提供:石原八重子さん(パシエントサロン協会/Fabry NEXT)

石原さんは患者支援団体を運営するほか、患者や医療者が交流する会を名古屋市で開催しています。この日の勉強会では、団体を立ち上げた経緯や、交流会の様子、今後の展望などをお話いただきました。

石原さんは同じ病気で集まることも、疾患や立場を越えて集まることも、どちらも大事だと考え、両方の活動を並行して続けているとのこと。「フラットな対話を通して、『患者が医療への関わり方を学ぶ場』から、『医療を含めた幅広い分野において、ともに学ぶ場』にしたい。そして、それが当たり前にある社会にしたい。」と話されました。立場の垣根を越えて話しあう場は、特に医療や福祉のプロにとって貴重な学びの機会になると感じました。

パシエントサロン名古屋

・毎月1回 一社にあるカフェで開催中
Kokoti café (ココティカフェ) / BookGallery トムの庭



パシエントサロンは患者協働の医療を目指し
医療への関わり方について
患者と医療者がともに学ぶ場をつくります

3月26日:日本に暮らす海外ルーツの人達の健康と課題
一知立市の多文化子育て支援活動を通して一

話題提供:坂本真理子さん(愛知医科大学看護学部教授)



坂本さんが愛知県知立市で取り組んでおられる外国人住民支援に関するフィールド研究、そしてそれに伴う活動のお話をいただきました。

既存のNPOと協働で多文化子育て支援活動を始め、また、「多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブック」の開発にも関わったとのこと。以前は利用者として来ていたお母さんが現在はリソースパーソンとして関わる人もいるそうです。研究者としてだけでなく、伴走者としても関わり続けている坂本さんのお話は、BiPHの活動を考える糸口になりました。

5月28日:ロックダウンと豪雨被害の東ティモールで
～UNPAZ-BiPHプロジェクト出張報告～

話題提供:石本馨(BiPH事務局長)

BiPHの東ティモール事業の進捗と、3月の出張で見聞きしたディリのロックダウン状況、ならびに豪雨被害について報告しました。

現地のコロナ対応や被災者支援活動については、政府・国際機関・NGOそして地域住民などさまざまなアクターが関わっていました。日本と東ティモールでは置かれている状況は異なりますが、活動内容や課題から日本に住む私たちが参考にすべき点は多々あると感じています。当日は現地在住の参加者もいて、最新の状況や課題も知ることができました。



【今後の勉強会予定】

回	日時	テーマ	担当
73	8月20日(金) 18:30-20:00	-薬について考えるシリーズNo.3- 新型コロナワクチンと医薬品特許	稲場雅紀さん (アフリカ日本協議会、「新型コロナに対する公平な医療アクセスをすべての人に！連絡会」呼びかけ人)
74	9月24日(金) 18:30-20:00	外国人住民の新型コロナ感染から 見えてくる壁	橋本智恵さん (愛知県立大学大学院 国際文化研究科 前期課程)
75	11月26日(金) 18:30-20:00	完成間近？ “Helping Health Workers Learn”プロジェクト進捗報告	BiPH&ほんプロ監修チーム
76	1月28日(金) 18:30-20:00	尊厳ある生のために	安藤明夫さん (中日新聞 編集委員)
77	3月26日(金)	草の根進捗報告と東ティモールの保健 従事者教育事情(仮)	パーツ大学教員の皆さん BiPH

最新情報・お申込みはウェブサイトをご覧ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/biph/study-meeting/>

参加費：BiPH会員500円/回(年会費と合わせてご請求します)

非会員1,000円/回(クレジットカード利用またはコンビニ払いの場合)、または500円/回(口座振込の場合)

*新型コロナウィルス感染症対策により、当面はオンライン（Zoom）で開催します。
状況によっては開催方法変更もありますので、どうぞご理解ください。

【「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」について】

全世界に拡大した新型コロナに対応するワクチンの開発が進む一方で、ワクチンをめぐり国家間の争奪戦も激しくなっています。そんな中、すべての国の人々にコロナ対策の医薬品やワクチン、技術が届けられるよう、政府や国際社会に働きかける市民の動きが国際的に広がっています。日本でも、「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」が立ち上がりました。BiPHも団体としてこの連絡会に参加しています。参加する個人・団体は現在も募集中とのことです。詳しくは以下をご覧ください。



「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会
ご参加・ご協力の呼びかけ <https://aif.gr.jp/covid-19/network-covid19/>

【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける皆様からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください。

会員の種別、払込先は以下の通りです。また、ご寄付も随時ありがたくお受けしております。

詳細は事務局までお問い合わせください。

個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年

振込先：ゆうちょ銀行 00870-9-126227 シャ)ブリッジズインパブリックヘルス

会報「BiPHかわらばん」2021年7月号（通算8号）
発行：一般社団法人Bridges in Public Health
代表理事：樋口倫代
〒467-0027 名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2
TEL：052-846-5878 E-mail：biph-adm@umin.ac.jp
URL：http://plaza.umin.ac.jp/biph
FB page：https://www.facebook.com/biph.adm/



BiPH
Bridges in
Public Health